全闘委通信
No. 197
1970.1.3
日本大学全共闘
経済学部闘争委員会

・安保・沖縄闘争勝利！
・地区解放闘争勝利！
・帝国主義大学体制解体！
・古田体制打倒！

合法組織の非合法化を
闘う仲間の連合を！

昨年、六九年日大闘争を闘い抜き、帝国主義者に迫る質を引き出す中から为日なる闘いを組まんとしている経済学部の多くの学友諸君！

日大闘争は個別矛盾（二十億円脱税問題等々）に端を発したものであったが、大学そのものが为日支配の一翼を担う重要な環としてあったが故に必然的に帝国主義者との対決を余儀なくされてきたのであるが、そうであるからといって個別日大闘・争を放棄する中で政治主義的に政治闘争を闘い抜けば良いということにはならないだろう。我々が個別闘争を徹底的に闘い抜き個別矛盾の根底から本質的矛盾を追求する中で帝国主義者に迫る質を引き出し、安保・沖縄の決局の闘いを保証していく部隊となり得るのではないか。

現在、我々の闘いは権力・大学当局・関東軍等の一体化された弾圧と正常化路線＝古田体制強化（帝国主義大学体制強化）の中にあって後退を余儀なくされているのだが、その中で我々は何をなすべきか、先ず、個々の不満、学部内の具体的な諸問題等を明確に把握し、学内活動場所を獲得すべく学内合法組織（ゼミ・サークル・クラス等）を利用しつつ、その合法組織の強化・拡大を計れ、場所的学内合法拠点（学内合法組織活動場所）を保障すべく強化・拡大を計れ。また、合法組織それ自体では古田体制内のポツダム自治会のものとしてしか機能し得ないが故に合法組織を非合法組織化せよ。場所的学内合法拠点の確立追求の中から非合法化せよ。

また、遠く藤沢の地にあって、校舎の周りは鉄条網で囲われ、学内には職員が警察の如く徘徊し、各クラスには御用学生を配置し、学友をがんじがらめに支配する中でプレハブ兵営教育が行なわれ、その中で愛国・軍国思想を注入するといった超反動体制がしかれている。その中にあって藤沢の学友自身が藤沢反動体制を打破し、粉砕しようとする運動を起しつつある。我々はそれらの運動を支援しつつ、連帯しつつ、藤沢の学友と共に藤沢校舎を解放していかねばならない。また、現在日大闘争を主体的に担ってきた新四年生が卒業していこうとする中にあって、地区組織作成の命題がさし迫った問題として提起されるのではないだろうか。すなわち中央権力闘争を闘い抜くことによって大衆を流動化させ、左右両極分解をなし、戦略課題として感性化された大衆を党の総路線の下に集約していく、それが為にどんなに激烈に闘いを組もうと、その地区には何ら力は蓄積されず、それどころか为日においては自警団という形でその地区を権力側に集約されてしまう。この誤りは明確であろう。すなわち、我々が上手に動けば、その動いた軌跡上に自警団が組織化していて、超階層的な革命戦略は有り得ないし、中央権力所在地も設定し得ない。つまり中央権力拠点奪取・一点突破の闘いの中で帝国主義者に包囲殲滅されるサイクルより脱皮し、地区解放総反乱の闘いを導く中で帝国主義者を包囲殲滅するというサイクルの中から地区解放闘争の命題が必然的に導き出される。そういう中で、我々は中央権力政治焦点闘争を地区組織作成、強化、拡大という形で戦術利用として位置付ける。地区組織作成―地区結合―地区解放―総反乱、を導くべく地区解放・組織作成へ向けて新血建協を作成せよ。